

令和6年度事業報告

認定こども園木の実

1. 質の向上…子どもも保護者も保育者もHAPPY!

①【木の実・チーム力】の向上

スローガンで掲げたHAPPYとはどういったことなのか、HAPPYのために何が出来るのかの話し合いを重ね、HAPPYの定義や行動を明確にしていった。次年度のスローガンに「すべての子どもをHAPPYにします」と掲げ実践していく土台作りとなった。

また、4つのプロジェクト活動を実施。小集団かつ、参加できる時、または参加したいときに参加するストレスフリーで思いや考えが出しやすい”座談会”スタイルで課題解決に向けて取り組んでいった。1月にはプロジェクトの経過発表会を実施。発表では「HAPPYのために」というワードが多く用いられた内容で、木の実の向かおうとしている目標が共有されていること、チーム力の成長を感じさせられた。

②【教育・保育】の質の向上

公開保育だけでなく、他法人間との園内研修や県外視察研修に出かけることを実施した。県外視察研修では学びや感化されることも多く、やってみたいことを真似ることから取り入れていった。外部講師を招いての素材遊びの園内研修を行ったことをきっかけにアート・造形活動が活発になる。職員の要望により、意見を出し合いながら一時預かり保育室をアトリエに改修した。子どもの主体性、創造性を育む環境へと変化させていった。

2. 人材確保・定着・育成

養成校での授業や派遣会社主催の講座の講師を担ったり、園見学に招いたりしていった。保育の面白さや保育を工夫している職員の頑張り、子どものすごいと思ったことや可愛いしつぶやきなどを対話を通して共有し、保育の仕事に就くことがHAPPYであることを感じられるようにしていった。

3. 経営の安定化

定員充足率108%。沢山の園児の在籍で収支差額も開設以降最大となる。今後も選ばれる園であり、将来の運営の安定を見据えるために、4月にInstagramを開設しPR活動を行っていった。子どもがいない世帯とのつながりにも焦点を当て、地域交流活動として年3回キッチンカーを招き、木の実と地域の方々との接点の機会を設けた。こども園とキッチンカーの意外性が話題となり、リクエストがあったり、テレビや新聞記事にとりあげられたりするなど反響を呼んだ。

●3月、幹部・管理職対象の法人研修において木の実の取り組みを発表した。